

日本国内の チャリティーショップ運営団体の ネットワーク化事業

2016年3月25日(金)

特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会

副代表理事 和喜田 恵介

チャリティーショップ(CS)とは

一般市民などから無償で寄付された品物



ボランティアなどの協力で仕分け・販売



一般市民が買い物(リユース)



利益を社会的課題の解決に充てる

事業の目的

- 広く市民等から不用品の寄付を募り、それらを販売することで得られる利益を非営利活動に充てる「チャリティーショップ」(以下、CS)は、現在、日本国内で10団体程度が運営し、100軒程度存在する。
- 「不用品のリユース機能」と「非営利団体のファンドレイジング機能」を併せ持つCSは、徐々に注目を浴びつつある。
- しかし、日本国内でのCSの社会的認知度は低く、CS運営団体は財政や人材育成、他のCS運営団体との情報共有等の課題を抱えている。
- そういった課題を整理した上で、CSのネットワーク化を通じてそれらの課題を解決することにより、日本国内におけるCSの普及・啓発と、それにより期待されるリユースの機会拡大を図りたい。

事業内容

1. チャリティーショップ・ネットワーク会議の開催

CS運営団体による会議を開催し、アンケート調査の設計やネットワークによる運営力強化について討議した。

2. CSに関するアンケート調査の実施

CS運営団体と討議した上で作成した調査票を用いて、アンケート調査を実施し、各CS運営団体の状況や課題を整理した。

参加団体

	団体名	地域	店舗数
1	特定非営利活動法人WE21ジャパン	神奈川	55
2	特定非営利活動法人エコメッセ	東京	14
3	特定非営利活動法人オックスファム・ジャパン	東京	2
4	特定非営利活動法人ザ・ピープル	福島	3
5	公益社団法人セカンドハンド	香川	3
6	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会	愛知	4



WE21ジャパン(神奈川県)



エコメッセ(東京都)



オックスファム・ジャパン(東京都)



ザ・ピープル(福島県)

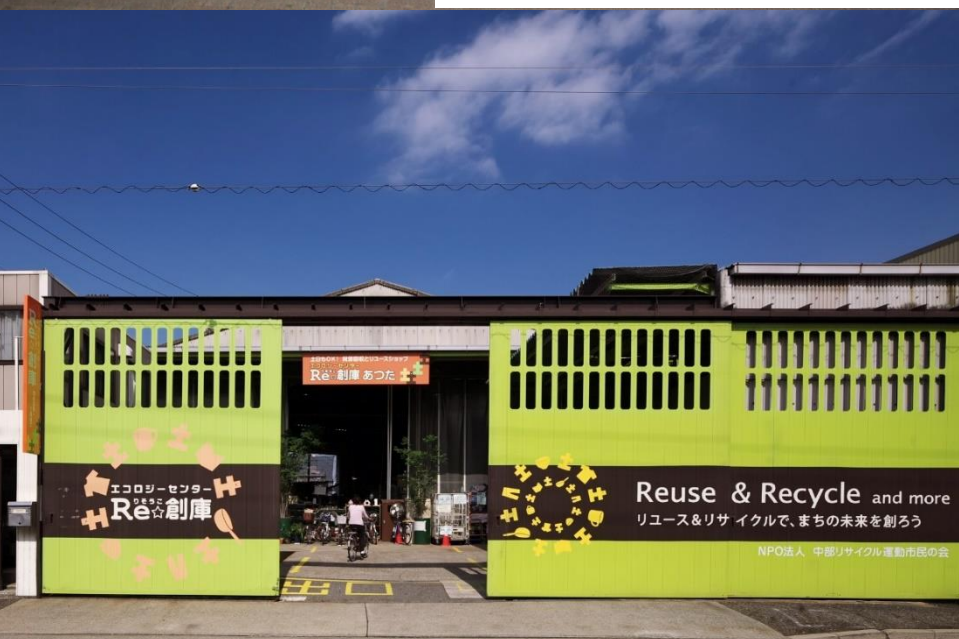


セカンドハンド(香川県)

計6団体が
本事業に参加



日本チャリティー
ショップ・ネットワーク
を設立(12/14)



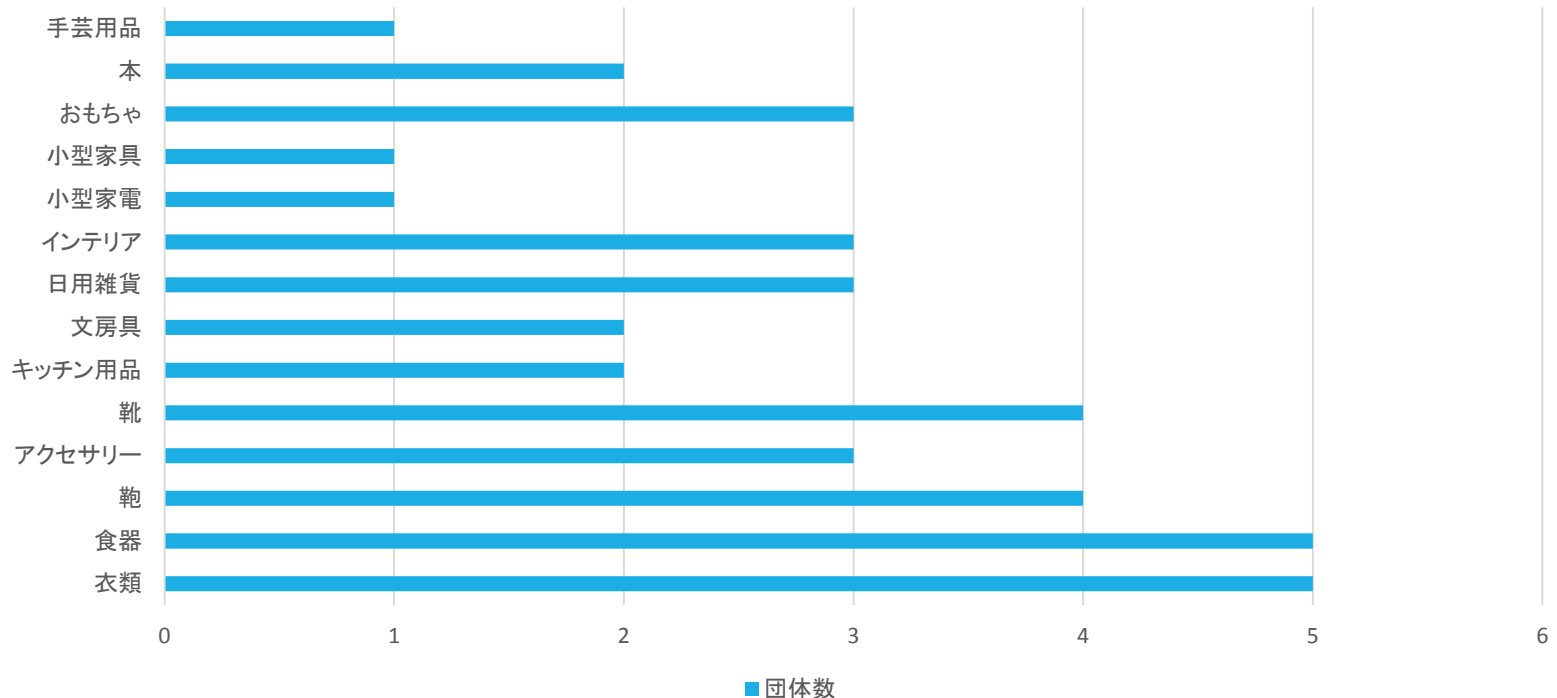
中部リサイクル運動市民の会(愛知県)



アンケート調査の結果

取り扱い品目

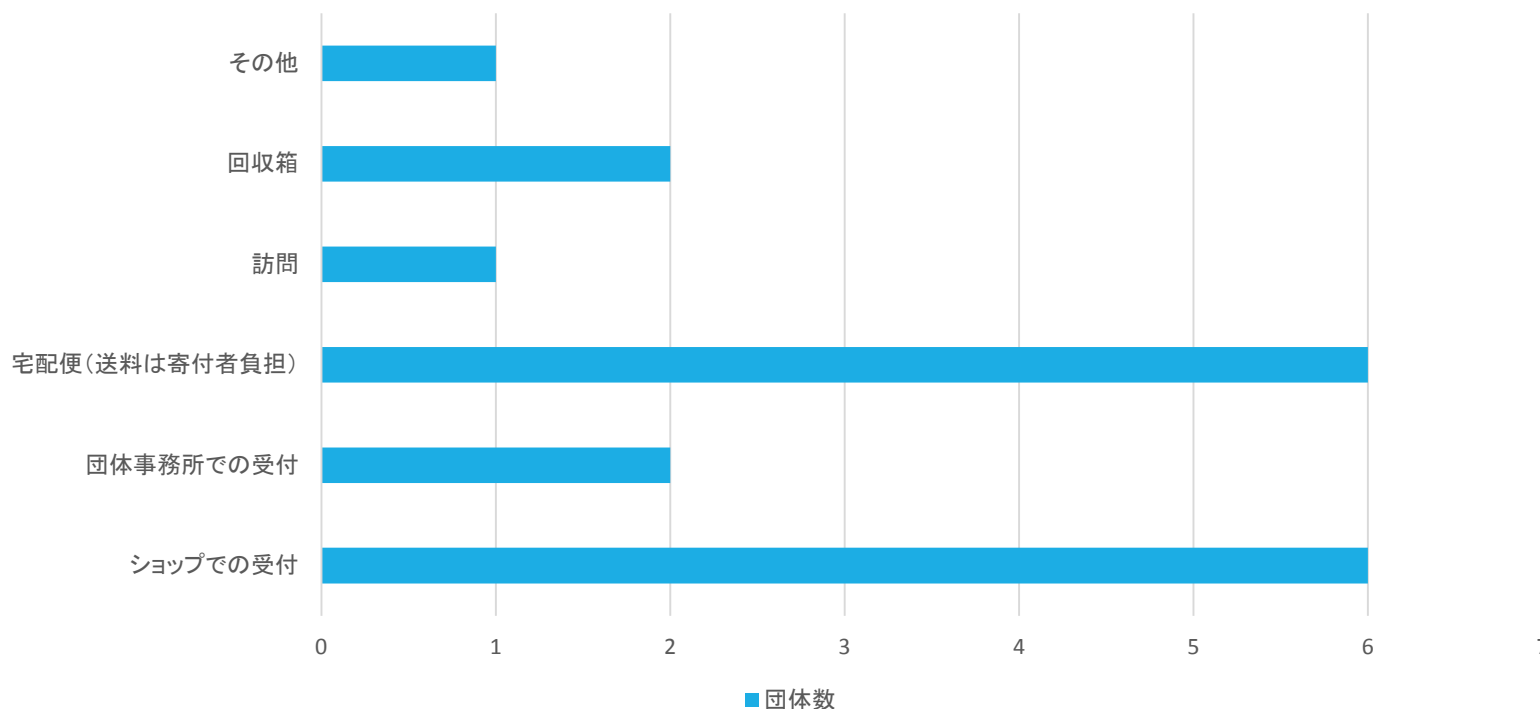
CSの主な取り扱い品目は、衣類・食器・鞆・靴・アクセサリー・日用雑貨・インテリア・おもちゃ等である。





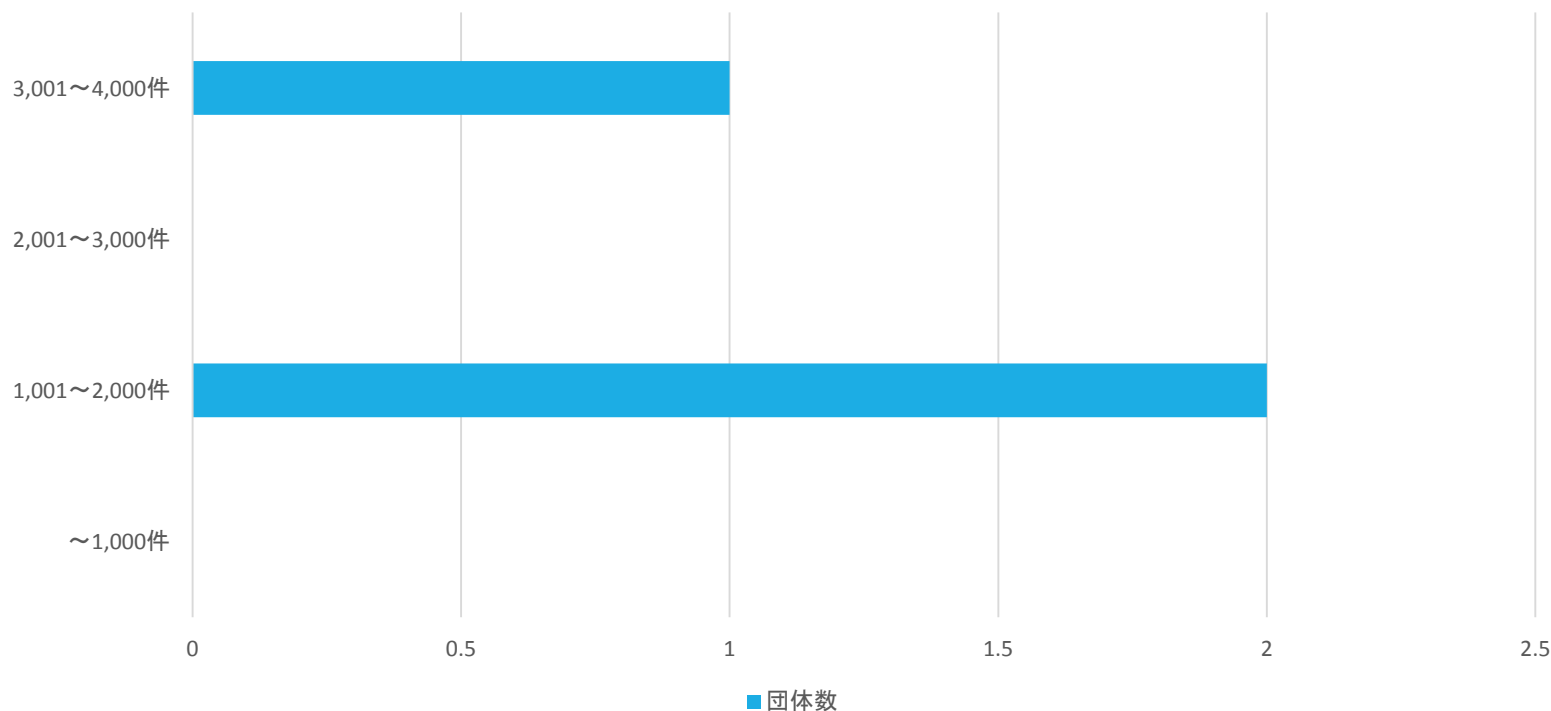
寄付品の受付方法

CSでの直接受付以外に、宅配便(送料元払い)による受付、団体事務所での受付、回収箱による受付等の方法がある。



1店舗あたりの平均年間寄付件数

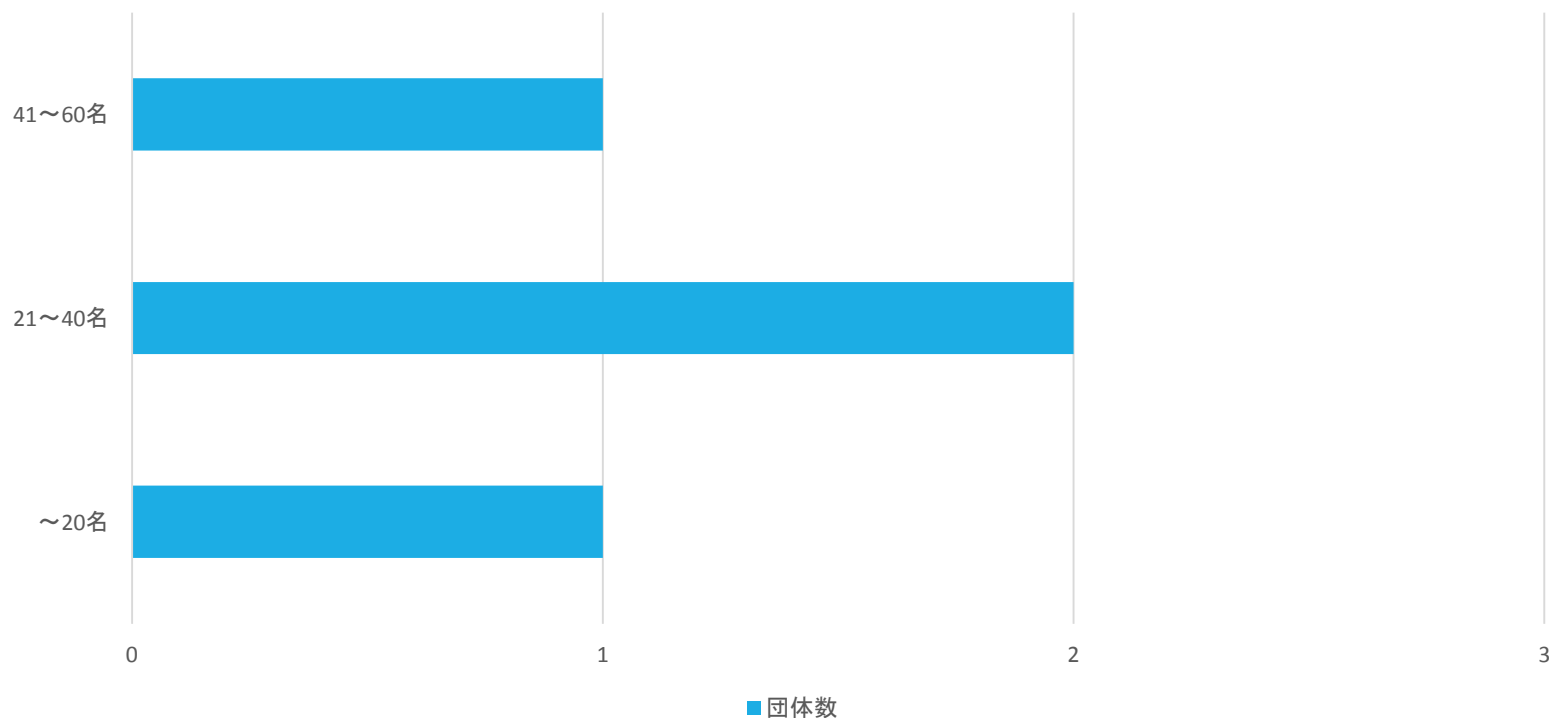
平均的なCSでは、年間1000～2000件程度の寄付が集まる。





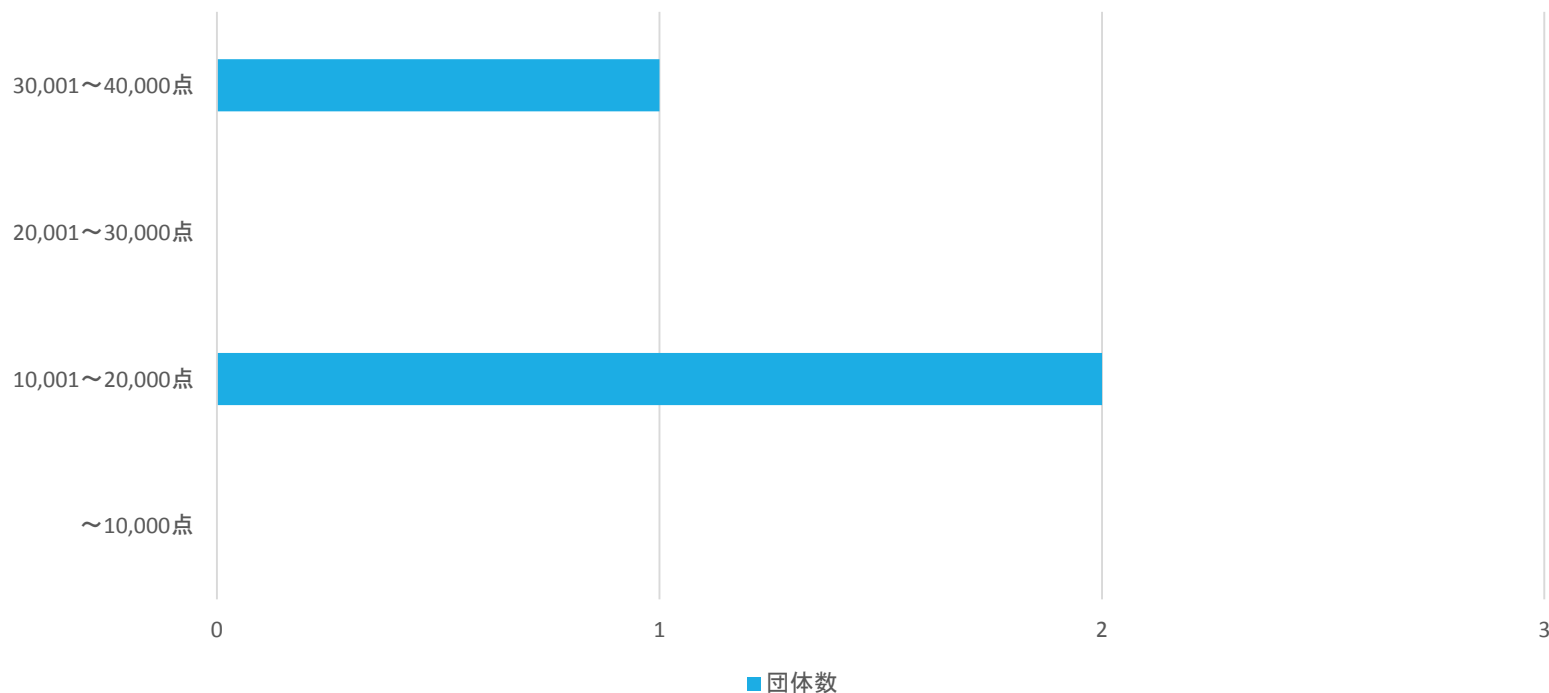
1店舗あたりの平均購入者数

平均的なCSでは、20～40名/日（5,000～10,000名/年）の購入者がいる。

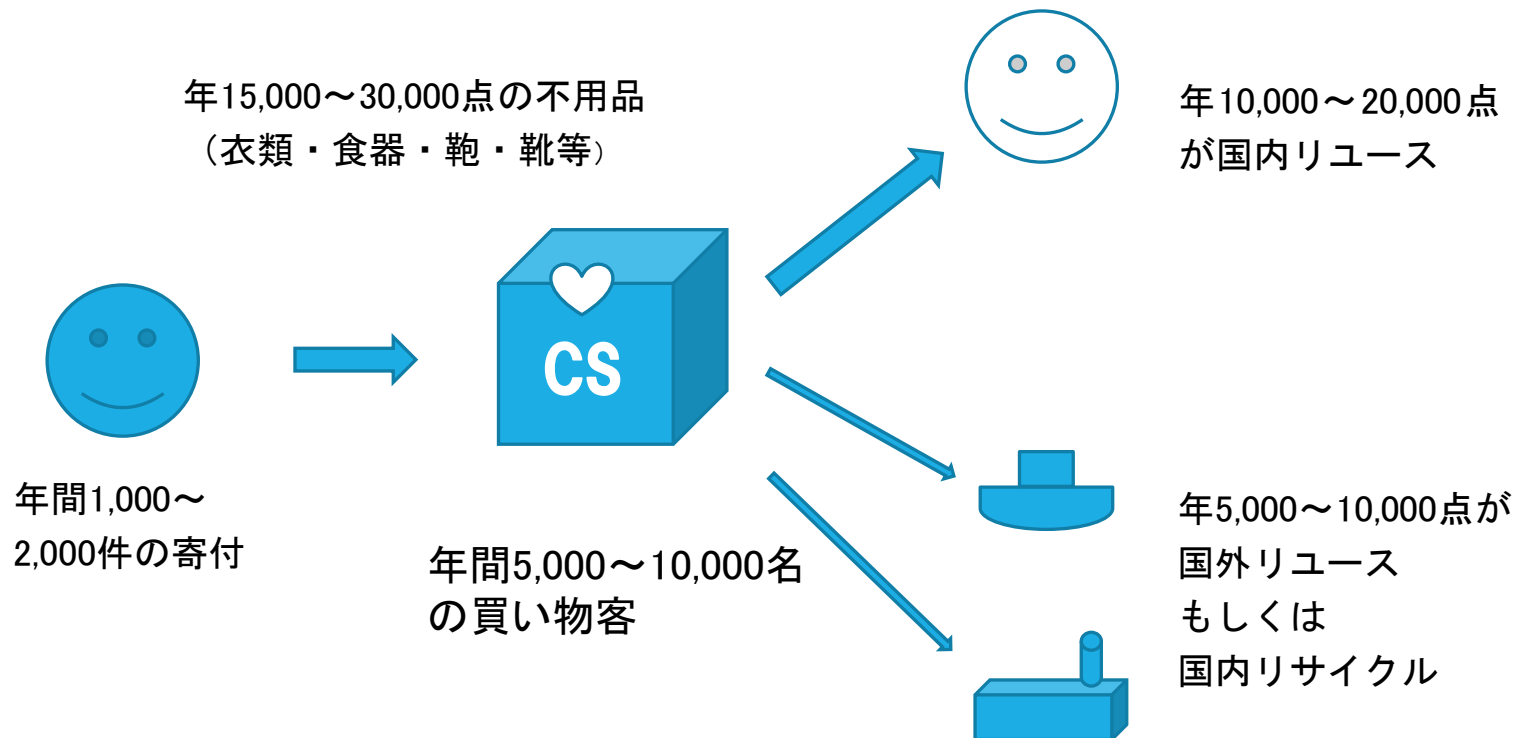


1店舗あたりの 平均年間リユース点数

平均的なCSでは、年間10,000～20,000点の品がリユースされている。

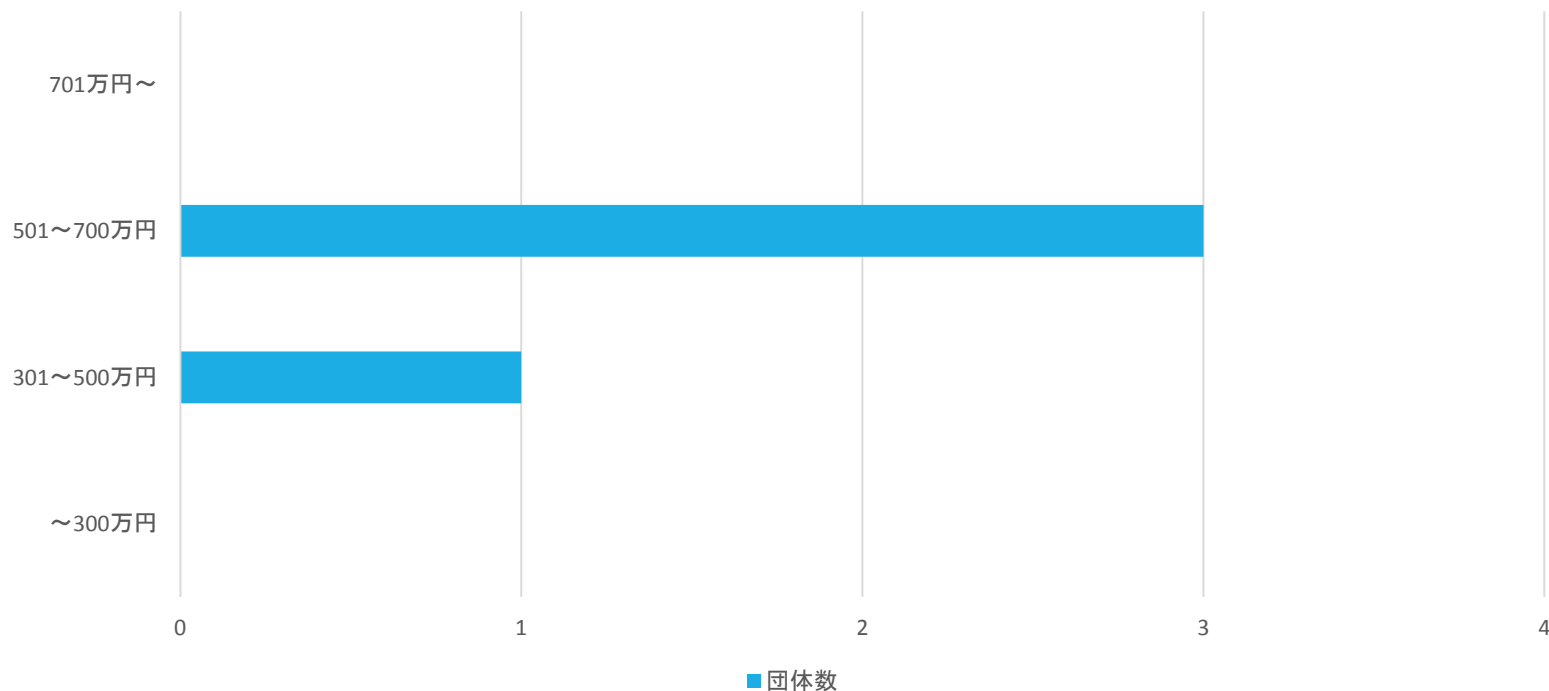


平均的なCS1店舗あたりの物の流れ(推計)



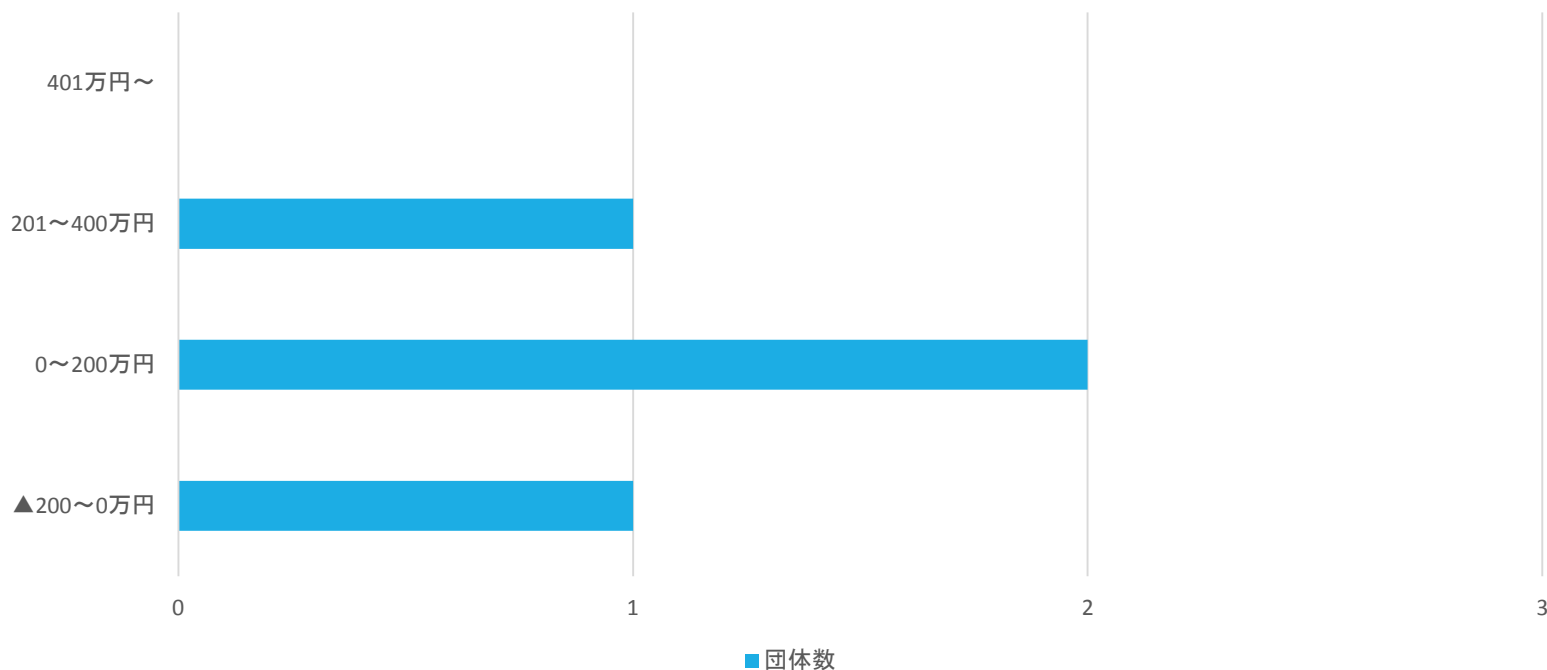
1店舗あたりの平均年間売上

平均的なCSでは、年間500～700万円程度の売上がある。



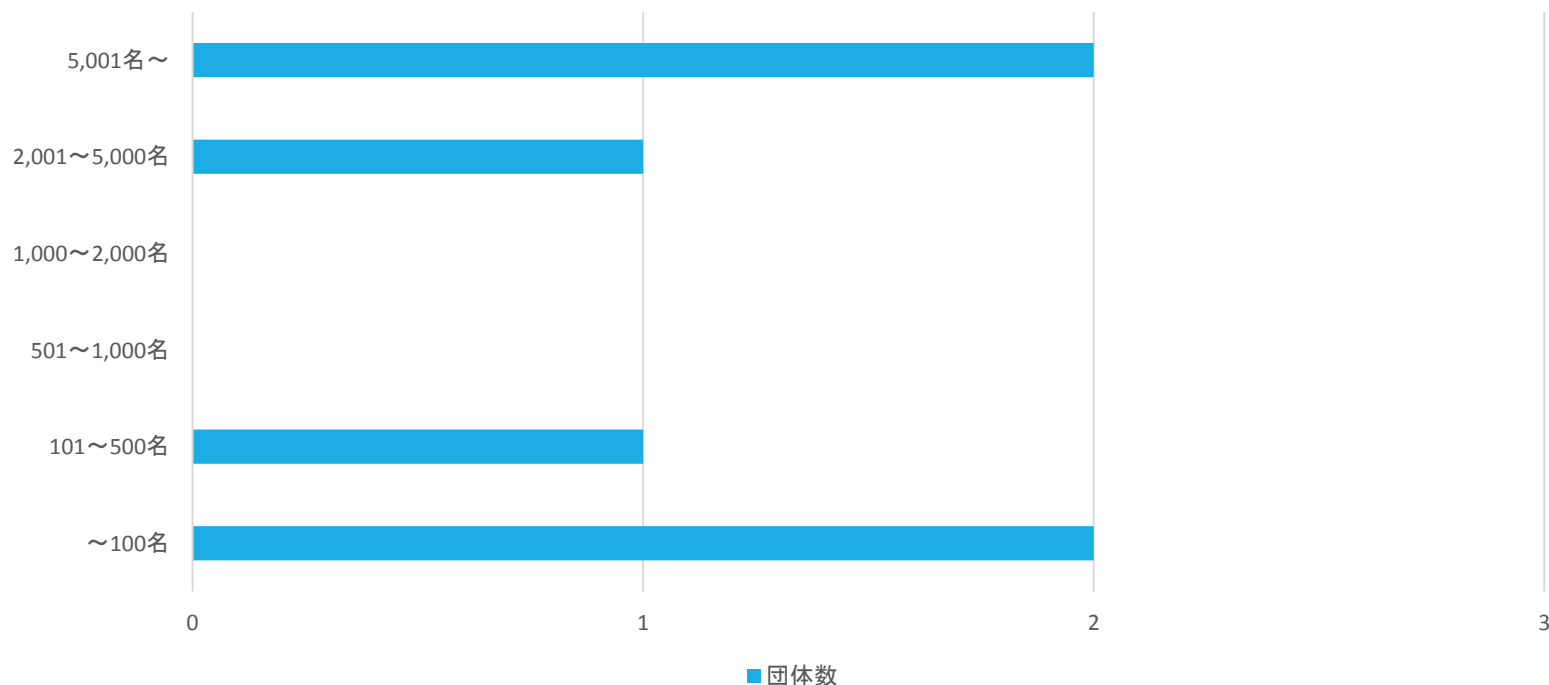
1店舗あたりの平均年間利益

CS1店舗あたりの平均年間利益は▲200万円～400万円と幅がある。ボランティアへの謝金(交通費・食費等)の支払い額も影響している。



年間のボランティア数

団体によって幅があるが、多くのボランティアがCS運営に携わっている。ボランティアの多くは、主婦や定年退所者である。障がい者が活躍している団体も。





CSが抱えている主な課題

- スタッフの高齢化・世代交代ができない
- ボランティアの高齢化
- 寄付品の不足
- 寄付品の品質低下
- 寄付金が集まらない
- CSの売上の低迷
- インターネットが活用できていない
- CSの意義が伝えきれていない

ネットワークへの期待

- 共同事業の実施（ネット販売・POSシステム・物流面の協力・寄付の仕組みづくり等）
- CSの運営に関する学習機会の提供
- CSの意義の発信
- 税制優遇に関するロビー活動の実施
- CSの定義付け・質の管理

英国のCSの現状

英国のCSの現状

- CSの店舗数 10,000以上(うち英国チャリティー小売業協会加盟8,000店以上)
- ボランティア 213,000人以上
- 収益 年間2億9千万ポンド(約551億円) ※1ポンド190円換算
- 支援対象 高齢者・若者・貧困者・病人・海外支援等
- 日本との違い
 - ✓ チャリティーの歴史(ボランティア活動やチャリティーへの高い評価)
 - ✓ 税制優遇措置(政府)
 - ✓ ボランティア制度(行政・企業)の活用

英国のCSの店舗

全英で10,000店を超えるCS



洗練されたショップデザイン



多様なボランティア



利益の活用方法のアピール

値札の裏に支援の内容が



店内で配布されるリーフレット



街中にある寄付品回収ボックス

オックスファムは約1,000個設置

路上に置かれることが多い



寄付を促進する制度（ギフトエイド）

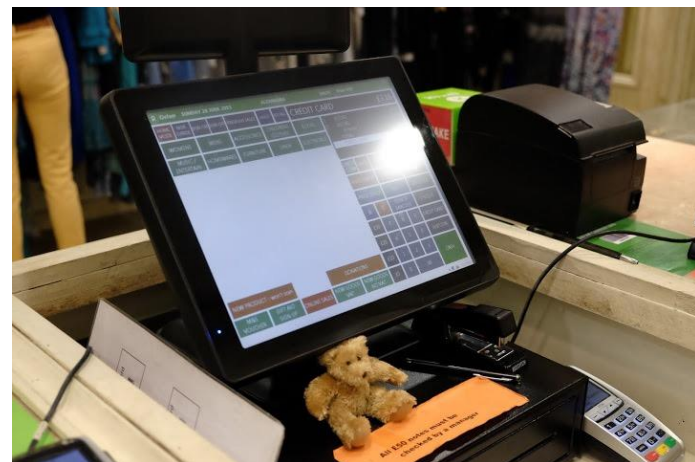
①寄付者登録



②寄付品にバーコード貼付



③レジで還付請求情報が整理



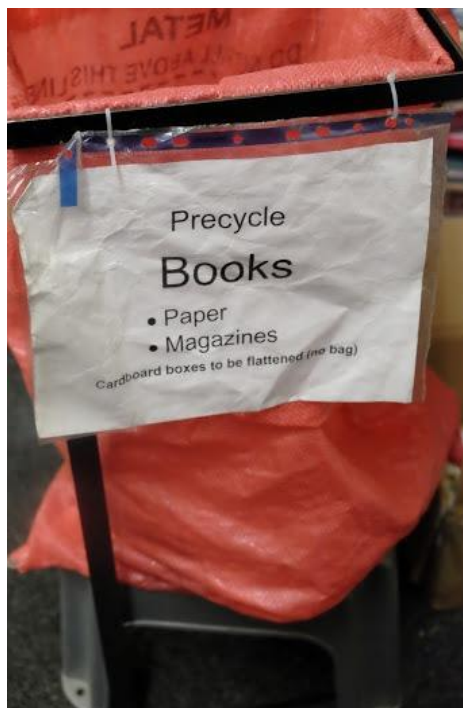
寄付品の売上金額の25%が政府からCS運営団体に支払われる仕組み（正確には、政府から寄付者に還付され、受け取らない場合、CS運営団体に支払われる）

寄付品を無駄にしない工夫

売れ残りは徹底的に分別



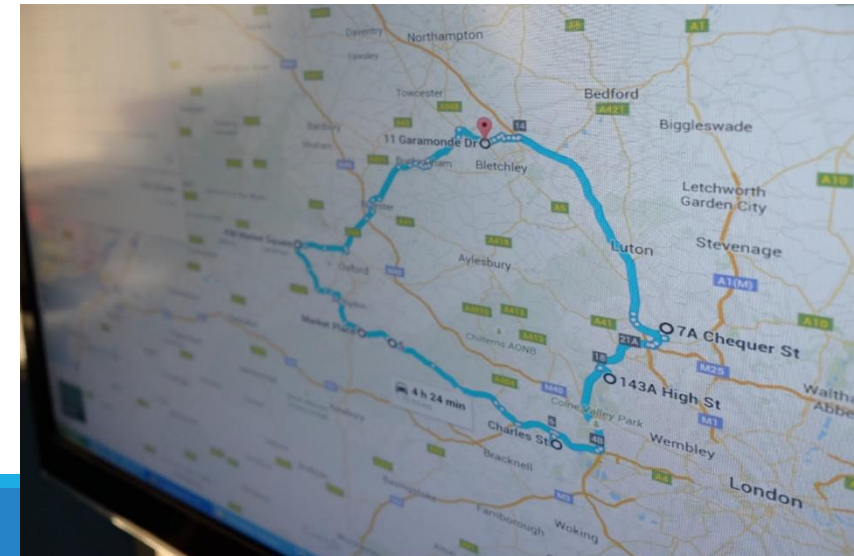
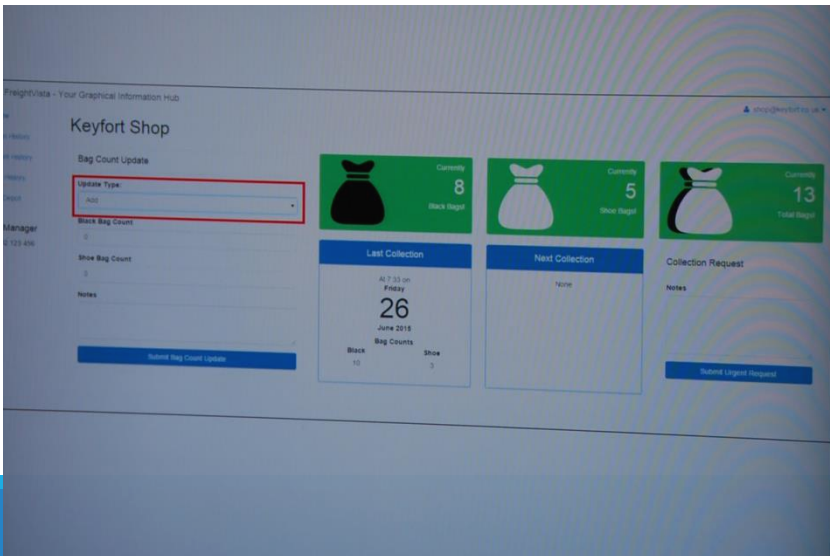
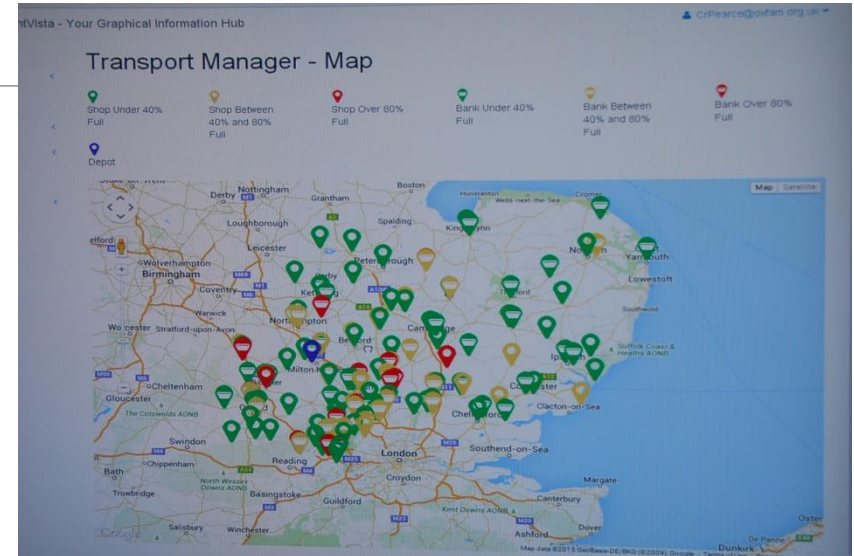
バックヤードで修理も施される



大規模な物流拠点



効率的な物流システム



インターネット販売



CS業界が市場として成立



CSの社会的価値

- リユース・リサイクル活動の拠点（寄付・買い物・啓発）
- 非営利団体のファンドレイジング・広報の場
- 地域コミュニティの強化・多様な人との出会いや交流の場
- 生きがい・やりがいの創出
- 地域経済への貢献・雇用創出
- 貧困者に対する経済的支援
- 災害時の支援拠点にもなり得る